

教育目標		のびのびと力いっぱい活動する子どもの育成						
重点目標		1、友だちと共に遊びを創り出す保育を実践する。 2、心身共に健康な幼児を育成する。 3、家庭・地域社会との連携を図り、信頼される幼稚園づくりに努める。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	自ら学び考える力を育む教育の推進	・友だちと共に遊びを創り出す子どもを育成する。 ・市内研究会に向けて、保育力の向上と改善をめざした園内研究会を実施する。	・講師招聘や共同研究会との研究会から、具体的な子どもの姿や教師の姿を継続して遊びに取り組みたり、子ども同士が関われる環境作りを行う。 ・毎学期1回以上、全職員が園内研修として保育公開をおこない、カンファ	・年度当初に比べて、遊びに打ち込む姿が各クラスの90%を超える。 ・すべての職員が学期に1回以上保育公開をおこなう。	A	・研究テーマに向かって共通理解を図り保育に取り組んだことにより、子ども達が夢中になって遊びを楽しむ姿へとつながっていった。 ・保育公開、講師を招聘しての園内研究会を複数回行えた。	・引き続き子どもの姿をしっかりと読み取り、状況づくりの観点から保育を創造していく。 ・来年度も4月当初に、保育公開、事例研修の日程や具体的内容を計画し、実行することで保育の資質向上に努める。	市内研究を受けて、資質向上に取り組めた。
	子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・一人一人が感じ考え心をゆらすための教育を推進する。	・子どもが自己を発揮し、遊びや活動に意欲的に取り組む。友だちとかわり心ゆらすことができる保育を計画し環境の改善、工夫に努める。	・月1度は、互いの環境を見合い、新たな環境を創り出す。	A	・各クラスの環境だけではなく、園庭環境の状況マップを作成したことで、子どもの遊び、そして学びが深まった。状況づくりという観点から保育を考えることができるようになってきた。	・状況マップの作成にとどまらず、実際の子どもの姿からの保育の振り返りを確実にし、次週の保育につなげていくことができるように、毎週末に全職員で話し合っていくようにする。	今年度得たものを来年度継続していく。
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、共に育つ特別支援教育に努める。 ・一人ひとりのよさや違いを認め合い、共に育ち合う子どもの育成に努める。	・子ども育ちを捉え、個別の指導計画や個人記録を作成し、職員間で指導内容や指導方法の検討、共通理解を行う。 ・特別な支援を要する子どもについて、子どもの事実から、育ちと課題、学級経	・個別の指導計画あげた短期目標の姿になる。 ・話し合いでわかった具体的な手立てを実践する	A	・話し合いで得られた具体的な手立てを全職員で共通理解して保育にあたることで、子どもの育ちが得られた。	・年度当初に個別指導、小集団保育の計画を細かく立案し、保育にあたる。	来年度も子どもの様子に応じて工夫していく。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進	・いたみっこのおやくそくカード(にこにこカード)を活用した心の教育をおこなう。 ・子どもの人権や子育てを振り返り、人権について考え合う。	・園だよりとホワイトボードで、毎月2項目、おやくそくカードの目標を取り上げ家庭と連携して取り組む。 ・子育てや男女共生などに視点をあて、保護者同士が意見を出し合う機会	・保護者アンケートにおいて「にこにこカードを活用している」と回答した割合が80%以上になる。 ・年に一度、人権に視点をあてた学級懇談会を行う。	B	・毎月の園だよりやホワイトボードを通して、家庭への啓発を行っていくことができた。しかし、取り組みに差が見られた。 ・人権に視点をあてた学級懇談会をにこにこカードの内容と関連させて実施することができた。	・にこにこカードの内容を家庭で話題にすることができるように、学級保育の中でカードを用いた具体的な取り組みを計画し実施していく。	引き続き、保護者に啓発の工夫をしていく。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・早寝・早起き・朝ごはんを定着させ、基本的な生活習慣を確立させる。	・規則正しい生活習慣の定着を図るため、月1回ほけんのはなしを実施する。 ・ほけんだより、けんこうカレンダーだよりを月1回配布し、「けんこうカレンダー」を活用し、家庭と連携して生活習慣の確立に取り組む。 ・けんこうカレンダーの保護者のコメントを次回のけんこうカレンダーだより	・月1回、養護教諭によるほけんのはなしを実施する。 ・ほけんだより、けんこうカレンダーだより、けんこうカレンダーを月1回発行する。 ・けんこうカレンダーだよりによりコメントを掲載する。	B	・けんこうカレンダーの目標を、子どもだけでなく保護者も意識して取り組める目標にすることによって、実態を把握すると共に課題を見つけることができた。	・引き続き実態に応じた課題をとり組める目標にすることによって、保護者と連携して基本的な生活習慣の確立に努める。	今年度一日のリズム、朝ごはん、運動とトータルで啓発すると良い。
保護者との連携	家庭教育の推進	・家庭で子どもと向き合う時間の推進をする。	・えほんカードの改善、よみかせカードの取り組みを始め、家庭での読み聞かせを推進する。	・90%の家庭で、月1回読み聞かせを行う。	B	・初めての取組であったが、各家庭で読み聞かせの機会をもてた。 ・各家庭での保護者の取り組みに差が見られた。	・新入園の保護者にも1学期より推進し、継続して取り組めるようにする。	来年度も引き続き継続して行ってほしい。
開かれ信頼される学校園	園情報の積極的な発信	・積極的に園情報を発信する	・園だより・クラスだよりを月1回発行し、地域にも配布する。 ・園での生活や教育がわかりやすいように、写真を活用し、視覚的に知らせる。	・園だより、クラスだよりを月1回発行する。 ・月に2回は、その時期の様子や生活の写真を掲示する。	A	・クラスだよりの発行、園だよりの地域配布ができた。 ・写真掲示を積極的に行うことで情報発信ができた。	・教育要領の内容を取り上げ、子どもの具体的な姿とつなげながら、クラスの様子をわかりやすく、園の教育に関心をもってもらえるよう、クラスだよりでわかりやすく伝えていく。	妥当である。
	地域との交流	・地域の幼稚園としていろいろな地域の方とのかかわりを深める。	・県民まちなみ事業や、苗圃を活用する会とのかかわりを保護者と共に行う。 ・地域の会との交流の機会をもつ。	・保護者アンケートで関心をもっている人の割合が80%以上になる。 ・次回に期待をもっていた。	A	・行事の参加、協力が新たにみられた。地域の園として認められてきたことを感じる。	・新たな協力を受けて継続していきけるよう年間計画に位置付けていく。	妥当である。

学校関係者評価総括

- ・今年度は研究を通して、教職員の資質向上、子どもの育ちが得られた。来年度も継続していく。
- ・保護者によって意識の差があるので、家庭と共に取り組める内容の工夫を引き続きしていく。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・今年度新たに推進してきた保育、保護者啓発の取り組みを継続し、積み上げていく。
- ・幼稚園、家庭、地域と共に教育の推進を図る為に、年度当初の計画、立案に取り組む。